

**【別紙】中東・ロシア・CIS(石油・ガス産出国等)における
カントリーリスク調査・評価基準書**

2014年9月1日
審査部 CRG

1. 組織の評価:総合点 20 点

(1) 財政状態

仕様書に掲げる調査業務を円滑に遂行するだけの財政状態にあるか。

- | | |
|--------------------|---|
| ① 破産の状態又は破産の可能性がある | 0 |
| ② ①以外の状態 | 5 |

(2) 人員体制

仕様書に掲げる調査業務を円滑かつ十分に遂行できる人員体制となっているか。

- | | |
|-------|----|
| ① の状況 | 10 |
| ② の状況 | 5 |
| ③ の状況 | 0 |

① の状況

概ね次の状況にある場合

- ・ 研究職が全部で 100 人以上
- ・ 世界及び特に GCC 諸国におけるエネルギー情勢に詳しいアナリストを有している。

② の状況

概ね次の状況にある場合

- ・ 研究職が全部 50～99 人
- ・ 世界及び特に GCC におけるエネルギー情勢に詳しいアナリストを有している。

③ の状況

概ね次の状況にある場合

- ・ 研究職は全部で 49 人以下
- ・ また、世界及び特に GCC 諸国におけるエネルギー情勢に詳しいアナリストも有していない。

(3) 契約実績

国際機関、ECA 又は日本の官公庁との契約実績があり、公的機関向けに十分なレピュテーションがあるか。

- ① の状況 5
- ② の状況 2
- ③ の状況 0

① の状況

概ね次の状況にある場合

- ・ 国際機関、ECA 又は日本の官公庁のいずれかと複数年に亘って契約実績がある。

② の状況

概ね次の状況にある場合

- ・ 国際機関、ECA 又は日本の官公庁のいずれかと単発での契約実績がある。

③ の状況

- ・ 国際機関、ECA 又は日本の官公庁のいずれとも契約実績がない。

2. 調査実施体制の評価:総合点 80 点

(1) 業務スケジュール

仕様書の業務を遂行するにあたり、計画的かつフィージビリティのある企画提案となっているか。

- ① の状況 10
- ② の状況 0

① の状況

次の場合

- ・ 仕様書に掲げる調査業務について、調査項目含めて達成可能な具体的提案になっている。

② の状況

次の場合

- ・ 仕様書に掲げる調査業務について、調査項目含めて達成可能な具体的提案になっているとは必ずしもいえない。

(2) 実施体制及び支援体制

仕様書の調査業務を遂行する調査責任者及び調査員の人員並びに調査責任者及び調査員を補佐する契約調査員が適切に配置されているか

- ① の状況 10
- ② の状況 5

① の状況

概ね次の場合

- ・ 調査責任者及び調査員の配置、支援体制(含むエネルギー需給動向分析)が十分適切になされているといえる。

② の状況

概ね次の場合

- ・ 調査責任者及び調査員の配置、支援体制(含むエネルギー需給動向分析)が十分適切になされているとは必ずしも言えない。

(3) 調査責任者の資質について

業務遂行にあたり、十分な専門的知見、経験、実績があるか。

① の状況	15
② の状況	7
③ の状況	0

① の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書の要件について、調査責任者の実務経験が10年以上
- ・ その他国内外から特筆すべき評価が与えられている。

② の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書の要件について、調査責任者の実務経験が5～9年

③ の状況

概ね次の場合

- ・ 上記①及び②のいずれの場合にもはてはまらない。

(4) 調査員の資質について

業務遂行に足る専門的知見、経験、実績を有しているか。

① の状況	10
② の状況	5
③ の状況	0

① の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書の要件について、担当調査員の実務経験が7年以上

② の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書の要件について、担当調査員の実務経験が3年から6年

③ の状況

次の場合

- ・ 上記①及び②のいずれの場合にもはてはまらない。

(5) エネルギー需給モデル

法人として、エネルギー需給動向の定量的分析能力を有しているか。

① の状況	15
② の状況	7
③ の状況	0

① の状況

次の場合

- ・ 独自の計量モデルを有し、仕様書の主要対象国及び世界のエネルギー需給動向が定量的に分析できる。

② の状況

次の場合

- ・ 独自の計量モデルは有していないが、提携先等の計量モデルが利用でき、仕様書の主要対象国及び世界のエネルギー需給動向が定量的に分析できる。

③ の状況

次の場合

- ・ 上記①及び②のいずれの場合にもはてはまらない。

(6) 研究機関又は国際機関との連携体制

王立研究所等世界的にもその専門的知見が知られている研究機関及び国際機関との連携体制が構築されているか。

① の状況	15
② の状況	7
③ の状況	0

① の状況

概ね次の場合

- ・ 王立研究所等世界的にもその知見が知られている研究機関又は国際機関との関係が深く、いつでも専門的意見交換が可能な体制が構築されている。

② の状況

概ね次の場合

- ・ チャタムハウス(王立研究所)等世界的にもその知見が知られている研究機関又は国際機関との関係があり、必要に応じて専門的意見交換が可能な体制が構築されている。

③ の状況

概ね次の場合

- ・ 上記①及び②のいずれにもはてはまらない。

(7) 過去3年間の類似又は関連業務実績

過去3年間において、仕様書と類似又は関連する業務実績を有し、仕様書に掲げる業務を法人として十分遂行できる知見、経験を有しているか。

① の状況	5
② の状況	2
③ の状況	0

① の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書と類似又は関連する過去3年間の業務実績に関し、複数年同種のサービスを提供した実績がある。

② の状況

概ね次の場合

- ・ 仕様書と類似又は関連する過去3年間の業務実績に関し、過去の3年間のうち単年でも同種のサービスを提供した実績がある。

③ の状況

概ね次の場合

- ・ 上記①及び②のいずれにもはてはまらない。

<注記>点数については、判断の大凡の目安とする。